

第4章 かわまちづくりの基本理念と基本方針

4-1 基本理念

感じよう。伝えよう。 多摩川で過ごす“狛江時間”

川には、古くから受け継がれてきた地域の歴史や文化、人々の生活とのつながりなど、その地域固有の「資源」が存在します。また、水辺は、その使い方や知恵によって新たな価値を生み出す可能性を秘めています。

狛江市では、日本最古の歌集である「万葉集」に収められた狛江の多摩川沿いの故事とされる東歌の一首が、玉川碑(万葉歌碑)に刻まれ、今に伝わっています。また、かつては対岸の登戸との間を渡し舟が往来するなど、多摩川に関わるさまざまな歴史や文化が育まれてきました。現在においても、多摩川は、自然が残る市内の水と緑の空間として、また、市民が散歩やジョギング、スポーツなどを行う日常の空間として、さらには、花火大会やいかだレースなどの市外からも多くの方が来訪する非日常の空間として、大変貴重な存在となっています。

これからは、多摩川の自然環境を後世に継承することを前提に、国・市・市民・事業者など多様な主体が関わり、「かわ」と「まち」の地域資源をより効果的に融合・活用することで、多摩川やその周辺で過ごす“狛江時間”の中で感じるやすらぎや居心地のよさ、楽しさといった魅力を高めていきます。そして、そうした魅力が人から人に伝わっていく好循環により新たな価値が生まれ、地域の活性化、地域ブランドの向上につなげていきます。



4-2 基本方針

基本方針1

多摩川の美しい自然をまもる

狛江市民が多摩川の自然やそれが創り出す美しい景観に対して愛着と誇りを持てるような環境の保全と形成を行うとともに、過去の被害を含めた、多摩川の自然環境に関する学習機会の提供を目指します。



基本方針2

狛江のひとときを過ごせる場をつくる

狛江市民が、日常的に家族、友人、ひとりで訪れ、散歩や水遊び、ピクニック、スポーツ、健康づくり、カフェでのひとときなど、思い思いの時間をゆっくり過ごし、リフレッシュできる憩いの空間の形成を目指します。



基本方針3

「かわ」と「まち」の賑わいをつなぐ

狛江市内外の多様な人たちが、「かわ」と「まち」で開催されるイベントやスポーツ大会などに集い、互いに語らうことで生まれる賑わいを多摩川とその周辺のまちに繋げていくことを目指します。

